

SSH通信

これからの行事

日本動物学会東北支部大会

2019.7.20 (土)

1/24(土)～25(日)

東北地区サイエンスコ
ミュニティー 有志生徒

● デビュー戦

今回の動物学会では、東北各地から動物についての研究が集められ、発表が行われました。私にとっては初めての経験で、しっかり相手に伝わるか、質問に対して適切な答えが出せるか不安でしたが、話し始めてみると心配よりも楽しい気持ちの方が強くなっていきました。大学の先生や他の高校生との議論も活発で、これからの私たちの研究活動にとっても参考になるような意見も多くいただき、本当に来て良かったと思いました。私たち理数科は、これから様々な場面で研究発表をします。繰り返していく中でよりよいものになるよう、仲間と協力して頑張っていこうと思います。

(2年理数科 叶 一希)

2/4(火)

古川黎明高校「黎明サイ
エンスフェスティバ
ル」 有志生徒

3/28(土)

日本水産学会 有志生徒

「集まれ！理系女子」女子生徒による科学研究発表会—東北大会—

2019.8.3 (土) 自然科学部生物班

● 初めての口頭発表を終えて

私は女子生徒のみが集まるこの発表会に、自然科学部生物班フェージ班として参加してきました。口頭発表は今回が初めてでしたが、発表途中で言葉が詰まったり、スライドの図をうまく指し示すことができなったりと反省点が多くあり、練習不足を痛感しました。しかし、自分たちの課題を知るいい機会になりました。今後も発表する機会は多くあると思うので、経験と練習を積み重ね、先輩方のような発表ができるよう頑張ります。

(1年理数科 熱海 彩帆)



SSつくば研修 2019.8.6 (火) 全学年希望者

● つくば研修を終えて

本研修では、研究学園都市として名高いつくば市にある産業技術総合研究所、高エネルギー加速器研究機構、宇宙航空研究開発機構の3施設を訪問しました。

各施設とも最先端の研究設備を有しており、それらを間近で見学できたことは非常に貴重な経験となりました。中には専門的な内容が含まれていて難しく感じるものもありましたが、高度な研究によって社会に寄与している点は大変興味深かったと思います。この研修を通して理系分野への関心を深化させ、見聞を広げられたと思います。

また、事前・事後の学習では初対面の生徒と共に作業することが多々ありました。協調性を高めることの重要性に気付けたことも大きな収穫であったと思います。

(2年普通科 板橋 亮汰)



Information

SSH課外活動は、理数科・普通科の別や学年を問わず本校生徒なら誰でも参加できるものがほとんどです。

宮城県仙台第三高等学校

仙台市宮城野区鶴ヶ谷1-19

TEL 022(251)1246

FAX 022(251)1247

E-mail sensan@od.myswan.ed.jp

わくわくサイエンス

2019.9.14 (土) 全学年希望者

● サイエンスを教える

9月14日に燕沢児童館を訪れ、わくわくサイエンスを開いた。私たちは液体窒素、空気砲、新型スライムの3種類の実験を行った。いずれの実験でもみんな興味をもって積極的に参加してくれた。特に印象的だったのは、空気泡の実験だった。空気砲は穴の開いたダンボールを叩くと空気が出るという仕組みのものだったが、懸命にダンボールを調べ、謎を解明しようとしているところに嬉しく感じた。

(2年理数科 中川 実梨)

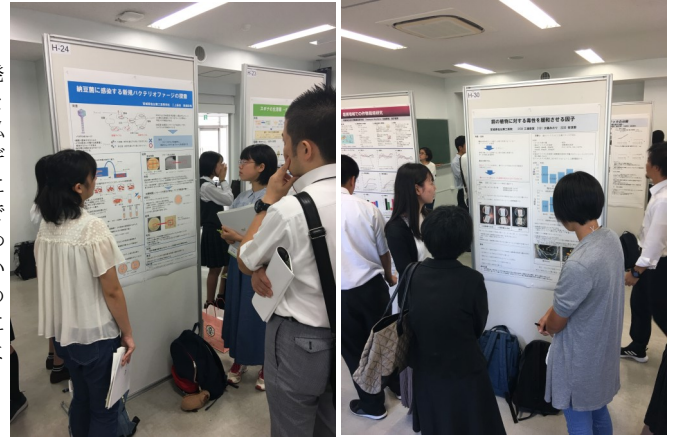


日本植物学会 2019.9.15 (日)

●植物学会で学んだこと

9月15日、植物学会があった。植物学会では、高校生が植物に関する研究の発表を行い、その研究についてのアドバイスを他校の高校生や先生方から頂くことが出来た。発表は前半と後半で分かれており、私たちは前半に発表を行った。私たちはスギナの研究を行っており、スギナの胞子茎であるつくしの形成と、スギナの前葉体の成長の条件とその原因について発表した。私たちの発表の中で特に興味を持ってもらったのが、スギナとつくしがつながっていることや秋にはすでに胞子茎が形成完了していることだった。前葉体の実験についてはホルモンについてのアドバイスを頂いた。私たちが想定していなかったホルモンの働きについても指摘して頂けたため、今後の実験はさらに発展しそうだ。後半は主に他校の発表を聞いた。同じ植物という括りの中での発表だったため、発表を聴くことによっても新たな情報が沢山得られた。今回はこの学会を通して研究への理解をより深めることができた。今後の研究に今日学んだことを生かそうと思う。

(2年理数科 中村 優月)



第11回坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト

2019.10.27 (日)

●坊ちゃん科学賞表彰式に参加して

私は先日、東京理科大学主催の坊ちゃん科学賞の表彰式に参加しました。私は初めて応募した論文がこのような形で外部の先生方に評価されたことが本当に嬉しく、研究に対するやりがいを感じました。また表彰式では優秀賞の作品の発表を聞き、発表の仕方やパワーポイントの工夫など、自分たちに足りない部分がたくさん見つかって、全国のレベルを身をもって感じる事ができました。さらに松本洋一郎学長のお話を聞いた事で、未来の科学の研究について自分自身で考えるきっかけになり、とても充実した1日になりました。この日の経験を部活動や課題研究にも活かしていきたいと思えます。

(2年理数科 丸谷 里歩)



第二回理数科講演会

2019.10.28 (月) 理数科1,2学年

●講演を聴いて

この講演会では、東北大学の千葉逸人教授より、「同期現象」について説明をいただいた。教授は、近年まで証明が不可能だったほどの難しい内容をわかりやすく説明して下さい、とても興味がそそられるものだった。また、終始笑いが絶えない朗らかな雰囲気であった。私がこの講演会で最も驚いたことは、同期現象が様々なもので起こるということだった。有名なメトロノームの針の動きをはじめ、渋滞のメカニズム、ロボットの歩行、鳥や魚の集団行動、心臓の拍動など、交通から生命活動まで同じ式で表せる現象で成り立っていることを知り、神秘的な気持ちになった。この講演会は、とても有意義で楽しい時間だった。是非ともまた教授に来て頂きたいと思う。

(2年理数科 大和田 京和)



●数学の可能性

先日行われたSSH講演会では、東北大学教授の千葉逸人先生にお越しいただきました。数学者である先生は、世の中に起こる様々な現象を数式で表すということを研究しています。今回の講演会では「同期現象」をテーマとしてご講演いただきました。この「同期現象」を応用すれば、現在よりもさらに正確な動きをする心臓のペースメーカーなど、これまで実現できなかったものを作ることもできるそうです。先生には「同期現象」について世界中から質問が来るため、とても忙しい、とのことでした。先生は研究したいことはまだまだたくさんあり、それが尽きることはないとおっしゃっていました。身近に起こる興味深い出来事について聞けたり、私たちの方からたくさん質問が出たりして、とても活発な面白い講演会でした。

(1年理数科 千葉 淳一郎)